

## 訳者あとがき

本号の「統計研究参考資料」では、ペレストロイカ後期のソ連と現在のロシアとにおいて行われてきた統計改革の状況について、ソ連国家統計委員会とロシア連邦国家統計委員会との指導者が執筆した4つの論文を翻訳した。

4つの論文のロシア語表題はそれぞれ次の通りである。

- I. В. Кириченко, Актуальные проблемы решительной перестройки статистики, // Вестник статистики // 1989, №9.
- II. В. Н. Кириченко, Основные цели статистической политики в СССР, // Вестник статистики // 1991, №3.
- III. В. Кириченко, И. Погосов, Новые принципы статистики: первые результаты, // ЭКО // 1991, №10.
- IV. П. Гужвин, Российская статистика сегодня и завтра, // Вопросы экономики // 1993, №5.

これらの論文を通じて、ペレストロイカ後期のソ連と現在のロシアとにおける統計改革のなかで、何がなされたかについての概略を知ることができる。4つの論文において述べられているいくつかの重要な点を挙げれば以下の通りであろう。

1. SNAをソ連とロシアとにおける新たな統計原則のひとつとして位置付け、SNAへの移行に関する具体的作業経過が説明されている。
2. SNAの導入と関連して、従来の物価指数、統計分類、等とが、西側世界の統計実践において採用されているものへと変更されつつある。
3. 財政、信用、通貨流通、環境統計等とに関する統計改革の必要が述べられている。
4. ソ連統計の真実性について、具体的に最近に小売物価指数と卸売物価指数との公表値を挙げて解説している。
5. 国連の国際比較プロジェクトなど国際的機関への参加を重視し、また国内における統計調査にあたって国際機関の援助が必要である。
6. 国家統計委員会の幹部を選出するにあたって、職員による直接選挙が採用されるなど

- の、統計組織の民主化と、統計組織の政治からの自立性との必要が述べられている。
7. 統計の真実性をより高めるために、統計利用者としての国民の世論を統計へ反映させる手立てとして、特別の委員会を設置することの必要が述べられている。
  8. 報告制度については、煩雑化した報告項目を整理しつつ、制度そのものはより強化し、コンピュータ技術の利用を基礎として、いわゆる紙と鉛筆を使わない統計作成方法をより多く採用することが必要であると述べている。
  9. 統計組織の中央と地方との関係については、分権化を進めることの必要が述べられている。
  10. 近年の旧ソ連において、従来の集中型統計組織を批判する見解が見られるが（『経済学と数学的方法』誌1989年第25巻 5分冊掲載の「円卓会議」における討論）、ここで翻訳した論文では集中型統計組織に言及していない。

さて、今後のロシアの統計改革は、以上で見てきたように、統計作成の方法論を西側世界において採用されているものへと近付けていくこと、ソ連統計制度の二大特徴であった集中型と報告制度とを取りあえず残していくこと、との方向で進められていくとみてよいであろう。

社会的混乱のなかで、統計活動が不要不急のものとなされ、統計組織が縮小された例は国際的に見て少なくない。今後のロシアの統計改革の行方に注目したい。

尚、第二論文と第三論文とを佐藤智秋が、第一論文と第四論文と訳者あとがきを山口秋義が、それぞれ担当した。